

**都市計画公園(総合公園)
21世紀の森と広場
パークマネジメントプラン案**

令和4年6月

松戸市都市公園整備活用推進委員会

目次

第 1 章 パークマネジメントプラン策定の背景と目的 1

- 1-1 新たな公園づくり 1
- 1-2 ネガティブインパクトとポジティブインパクト 1
- 1-3 「パークマネジメント」の必要性 2

第 2 章 パークマネジメント及びプランの基本的考え方 3

- 2-1 パークマネジメントとは 3
- 2-2 パークマネジメントプランとは 3
- 2-3 パークマネジメントプランの位置づけ 4

第 3 章 21 世紀の森と広場の現況と諸課題の検証 5

- 3-1 21 世紀の森と広場の現況 5
 - 1) 公園の概要 5
 - 2) 周辺地域の現況 6
 - 3) ゾーニングの現況 8
 - 4) 公園施設の現況 9
 - 5) 自然環境の現況 11
- 3-2 管理・運営に関する現状と課題 12
 - 1) 全般的な管理・運営に関する現状と課題 12
 - 2) 個別施設の管理・運営に関する現状と課題 12
 - 3) 自然環境を尊重することに関する現状と課題 13
 - 4) 経営的視点で見た管理・運営の現状と課題 13
- 3-3 21 世紀の森と広場の利用者評価と課題 14
 - 1) 利用者アンケート調査の概要 14
 - 2) 調査の結果からみる評価 14
 - 3) 調査の結果からみる課題 14

第 4 章 21 世紀の森と広場の将来像を示す 4 つの柱 15

- 4-1 21 世紀の森と広場の将来像を示す 4 つの柱 15
- 4-2 パークマネジメントプランと 21 世紀の森と広場の将来像の 4 つの柱の関係 16

第5章 取り組みの方向性 **17**

5-1	取り組みの方向性	17
5-2	パークマネジメントプランの推進によりSDGsに貢献します	18
方針①	21世紀の森と広場の魅力を高めます	19
1)	みどりを活かし、みどりに親しむ場を創出します	19
2)	一日過ごしたくなる魅力的な空間と快適な施設を創出します	19
3)	歴史を感じる学びの場とともに文化を発信します	20
4)	魅力を伝える情報を充実し効果的に発信します	20
方針②	多様な機能で地域の魅力を高めます	21
1)	豊かで健全な地域の生態系を育みます	21
2)	健康づくりの拠点(ヘルシーパーク)を構築します	21
3)	コミュニティづくり活動の拠点を形成します	21
4)	地域の農的資源を利活用します	22
5)	生涯学習の活動の場を創出します	22
6)	生命と財産を保全するレジリエントな機能を構築します	22
方針③	マネジメントシステムを構築し実践します	23
1)	従来の管理運営システムを見直します	23
2)	多様な主体が協働できる場をつくり、パークマネジメントプランを推進します	23
5-3	パークマネジメントプラン実現のための施策の進め方	24

参考資料 **25**

第1章 パークマネジメントプラン策定の背景と目的

1-1 新たな公園づくり

本市では、市域の中心にある千駄堀地域を、最大かつ重要な緑のオープンスペースとして位置づけ、21世紀の都市生活におけるオアシスとして、都市計画公園（総合公園）21世紀の森と広場（以下「21世紀の森と広場」という）を整備しました。高度経済成長期以降の人口急増期に構想・建設が始まり、平成5年（1993年）4月の開園以降、自然尊重型都市公園として「千駄堀の自然を守り育てる」というコンセプトのもとに、本市のみどりの中心として四半世紀以上にわたって管理・運営してきたことにより、公園そのものが巨大なグリーンインフラ（16頁 参照）とも言える現在の姿を実現しています。

この間、本市は人口50万人が間近に迫る大都市に発展し、21世紀の森と広場は人々のライフスタイルに深く溶け込み、地域の財産として、市民生活の糧となっています。しかし、一般的に公園に求められる役割は、昭和から平成、令和に至る社会・経済状況の中で大きく変化し、現在では持続可能な社会の実現と連動するライフスタイルの創造が希求されています。そのための根幹的役割を果たす公園は、公園だけの機能・効果を発揮するのみならず、その周辺を含む広範な地域に対する波及効果も包含した、新たな公園づくりの施策が求められています。

1-2 ネガティブインパクトとポジティブインパクト

同時に公園の管理行政を取り巻く状況も大きく変化しています。個別事業の財政改革、公共事業抑制、公園への財政支出の抑制が行われており、これは整備及び管理運営の両面において顕在化し、特に管理費の削減という深刻な事態に直面しています。このことが公園の持つ潜在的な価値の低下を招き、市民に対して公園の価値を還元できない状況が生まれています。これらは、ネガティブインパクト（マイナス面の影響）としてとらえることができます。

また、社会基盤（資本）の一つと位置付けられている公園そのものの存続にかかわる事柄として、地球温暖化に伴う地域レベルの環境問題や市民のライフスタイルの進化に伴って発生する公園の施設や環境に対する対処の内容が大きく様変わりしています。都市生活に欠かせない緑の空間インフラとして、あるいはレクリエーションの場として果たしてきた土地や自然の機能や形態の有り様に対する市民意識や要求がドラスティック（抜本的）に変わろうとしています。緑の空間インフラとしては環境の質に直接関わる生物多様性の保全や維持、レクリエーションの場としては新しい様式の高度なライフスタイルの実現に大きく関わる様々な公園施設の機能や質的水準（サービス）の向上が強く求められています。

それと並行して、少子・高齢化、様々なニーズを有する人による利用機会の増大などに伴い、従来は障害の無い人や成人を中心に考えられていた利用の在り方が大きく変わろうとしています。さらに、昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大を契機としてニューノーマルという考え方も定着しつつあります。これらの事柄も、ネガティブインパクトとして

考えてしまうことも多いようですが、実は公園にとってのポジティブインパクト（プラス面の影響）をとらえ直すことで、新たな発想の転換が生じることとなります。

例えば、ライフスタイルの変化に応じて公園の利用や存在機能の考え方も大きく変わってきており、周辺地域との関係も大きく変わってきています。公園行政が公園から地域へと対象範囲を広げ、地域と公園が一体となって公園の価値を還元する新たな行政施策が必要になっているのです。21世紀の森と広場においても、自然を基盤としたレクリエーション空間としての素晴らしい価値を市全体に還元することが必要となっており、管理運営方法の進化による新しいニーズへの対応が迫られています。

1-3 「パークマネジメント」の必要性

そのためには新たな投資が不可欠ですが、公園への財政支出が抑制されている現況下では、行政だけで管理システムの向上や財源的支出の拡大を担うことはできません。そのため、公民連携システムの構築により知恵とファンドを共有し、効率的、先進的な運用を図ることで、ネガティブインパクトをポジティブインパクトに転換することが必要です。

そこで、「パークマネジメント」という概念を導入することとし、パークマネジメントに関わる全ての人々が共有する指針として「21世紀の森と広場パークマネジメントプラン」を作成しました。

21世紀の森と広場は、本市のみどりの中心であり公園の中心でもあります。パークマネジメントプランによる新たなパークマネジメントの取り組みを推進し、本市におけるパークマネジメントのモデルとして発展させることで、市内の他の公園にも展開していきます。

さらに、各公園におけるパークマネジメントの取り組みを連携させ、東松戸ゆいの花公園や戸定が丘歴史公園など特色のある公園をネットワーク化することで、相乗効果によりそれぞれの公園の魅力を高め、様々な公園を巡る楽しみを生み出します。（図1参照）



図1 21世紀の森と広場を中心とした公園のネットワーク化(イメージ)

第2章 パークマネジメント及びプランの基本的考え方

2-1 パークマネジメントとは

これまでの公園は、設置者・管理者である行政が法令・規則に基づいて維持・管理を行ってきましたが、公園への財政支出が抑制されている現況下にあつて、効率的かつ新しいニーズに応えられる方法と仕組みが模索されています。パークマネジメントとは、これまでの公物管理としての維持・管理とは異なり、公園の持つ価値と魅力を高めるために行う新しい管理・運営の仕組みです。

本市が考えるパークマネジメントとは、市民、民間実務者（高度な専門知識・技術を持つ）、公園関係専門家（活動家）、行政機関など、多様な主体がそれぞれの立場を尊重し、持てる能力を融合して管理・運営組織を構成し、多面的かつ柔軟性のある管理・運営業務を行い、公園と地域の魅力を向上させ、新しいライフスタイルの発信に資する施策を実践する仕組みのことです。

今現在も、21世紀の森と広場で、樹林地の保全や農体験・自然観察等、様々な市民団体の方々が主体となり活動していますが、さらに多様な主体が、それぞれの得意分野を最大限活かし、互いの能力を融合し、成果を共有できるような形で参画、行動することで、パークマネジメントの事業が効果的に運営され、発展的に継続し、次世代へとつながっていくことが期待されます。

こうした多様な主体の連携によるパークマネジメントを実践することで、公園と地域が一体となって生活基盤を向上させ、新しいライフスタイルの創造に寄与し、市民のシビックプライド(誇り)を高めることができます。

2-2 パークマネジメントプランとは

パークマネジメントを実践するためには、これまでのような行政による公物管理の発想、仕組み、手法から転換し、多様な主体が関わる公民連携を基盤に据えることが必要です。さらに、多様な主体が主体的にマネジメントに関わり、実効性を高めるためのシステム（パークマネジメントシステム）を構築することが求められます。

パークマネジメントシステムを効果的に運営するために、パークマネジメントの理念を示し、マネジメントに関わる多様な主体の活動指針となるのが「21世紀の森と広場パークマネジメントプラン」です。

2-3 パークマネジメントプランの位置づけ

「21 世紀の森と広場パークマネジメントプラン」は、「松戸市総合計画」及び「松戸市都市計画マスタープラン」を上位計画としています。「松戸市みどりの基本計画」の基本方針では、「ワンランク上のみどりをつくる」ことの重点施策として、本プランが 21 世紀の森と広場の整備と管理・運営方針として位置づけられています。(図 2 参照)

なお、このパークマネジメントプランの期間は、概ね 10 年間とします。但し、必要に応じて、中間段階で見直しを行うものとします。(24 頁参照)

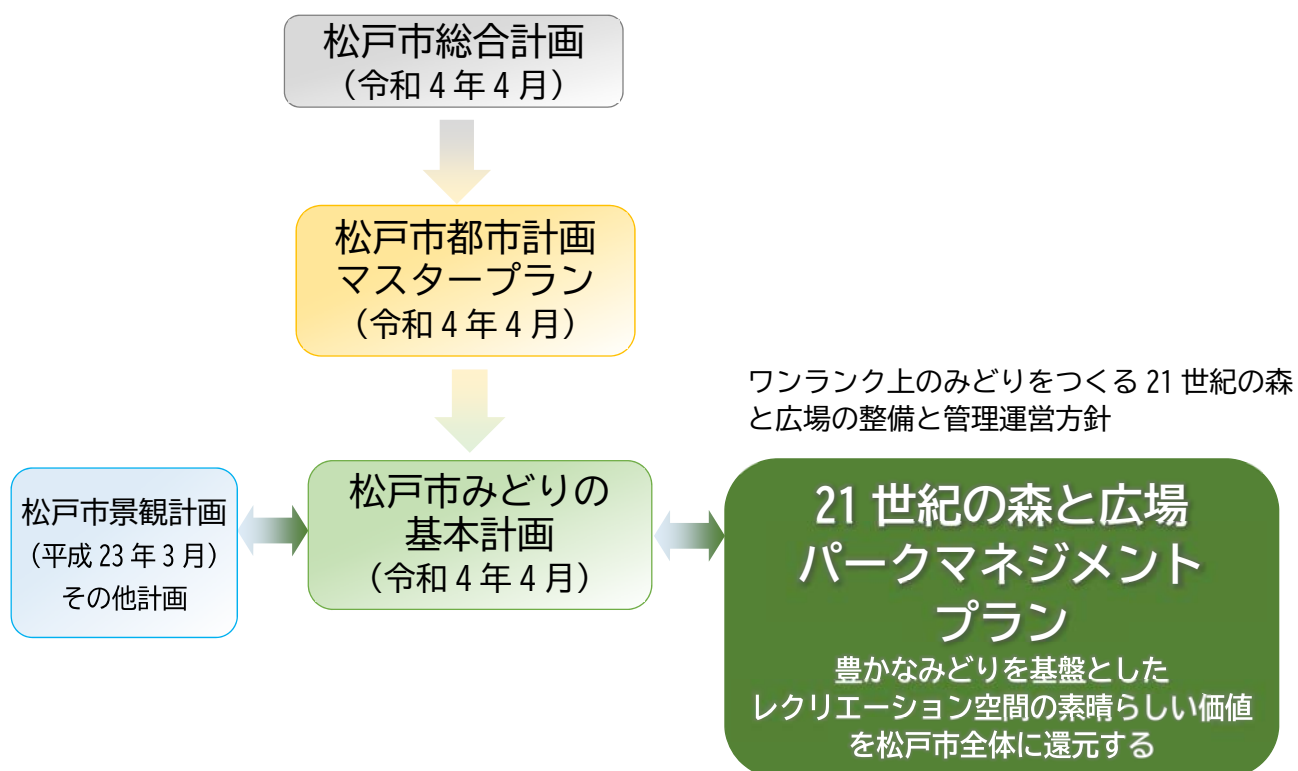


図 2 「21 世紀の森と広場パークマネジメントプラン」の位置づけ

第3章 21世紀の森と広場の現況と諸課題の検証

3-1 21世紀の森と広場の現況

1) 公園の概要

21世紀の森と広場は、市域の中央部に位置し、平成5年（1993年）4月の開園以降、自然尊重型の都市公園として、市が整備し公園施設を管理・運営しています。

広さは東京ドーム11個分（50.5ヘクタール）もある大きな公園で、緑豊かな園内は山、林、池、田園など様々な自然に触れ合うことができる環境となっています。

新京成電鉄「八柱駅」もしくはJR武蔵野線「新八柱駅」より徒歩15分の位置にあります。（図3参照）



図3 21世紀の森と広場の位置（出典：国土地理院）

「共働き子育てしやすい街ランキング 2021」 総合編 BEST 10		
1位	松戸市（千葉県）	83点
2位	宇都宮市（栃木県）	81点
3位	浦安市（千葉県）	78点
3位	富山市（富山県）	78点
5位	厚木市（神奈川県）	76点
5位	北九州市（福岡県）	76点
5位	福生市（東京都）	76点
8位	青梅市（東京都）	74点
8位	大分市（大分県）	74点
8位	堺市（大阪府）	74点



- ◇ 共働き子育てしやすい街ランキング
2020・2021 2年連続第1位
- ◇ 2020年度 千葉県ベスト育児制度賞 受賞
- ◇ 第2回 日本子育て支援大賞 2021 受賞

図4 「共働き子育てしやすい街ランキング 2021」総合編

2) 周辺地域の現況

- ・21世紀の森と広場は、人口約50万人都市の都市基幹施設となります。
- ・本市は住みやすさの評価が高く、共働き子育てしやすい街ランキング2021総合編1位（日経xwomen）となりました。この評価は、共働きをする際に必須となる施設と補助のほか、コロナ禍での子育て世帯への支援などを対象としています。（図4参照）
- ・周辺地域は、住宅市街地としてのポテンシャルが高い状況にあり、樹林地と畑が多く残存し、幼稚園や保育園、小中学校が複数あるほか、総合医療センターが立地しています。（図5・図6参照）
- ・市内には複数の大学があり、行政と連携した取り組みも行われています。
- ・21世紀の森と広場に隣接して、市営文化施設（森のホール21、市立博物館）や、県立西部図書館が立地しています。

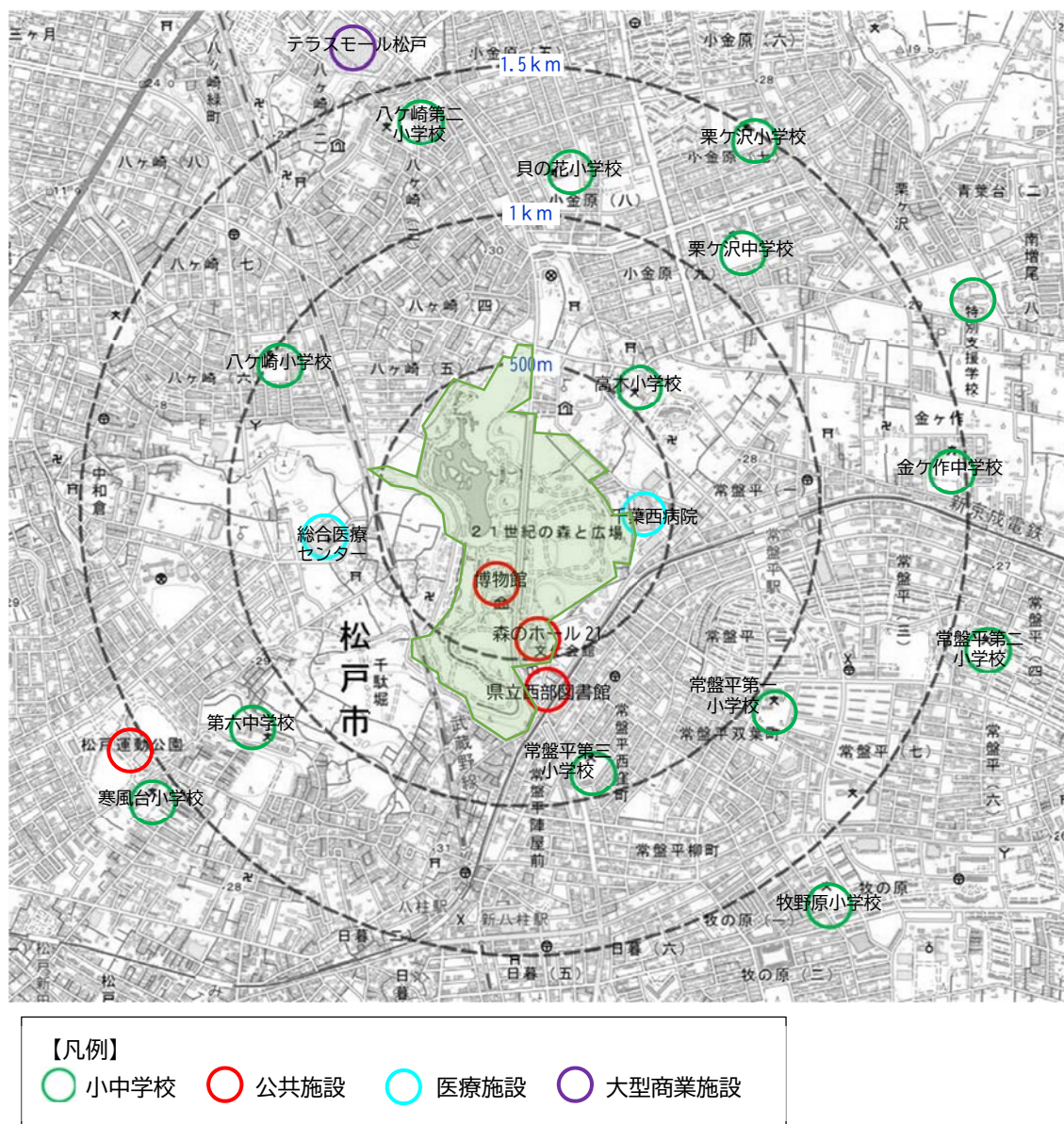


図5 周辺の社会環境

- ・ 21 世紀の森と広場が中心核となり千駄堀地域から金ヶ作地域には大きな緑（樹林地・草地・農地）が連続しており、常盤平地域も団地などの緑が多い地域となっています。（図 6 参照）

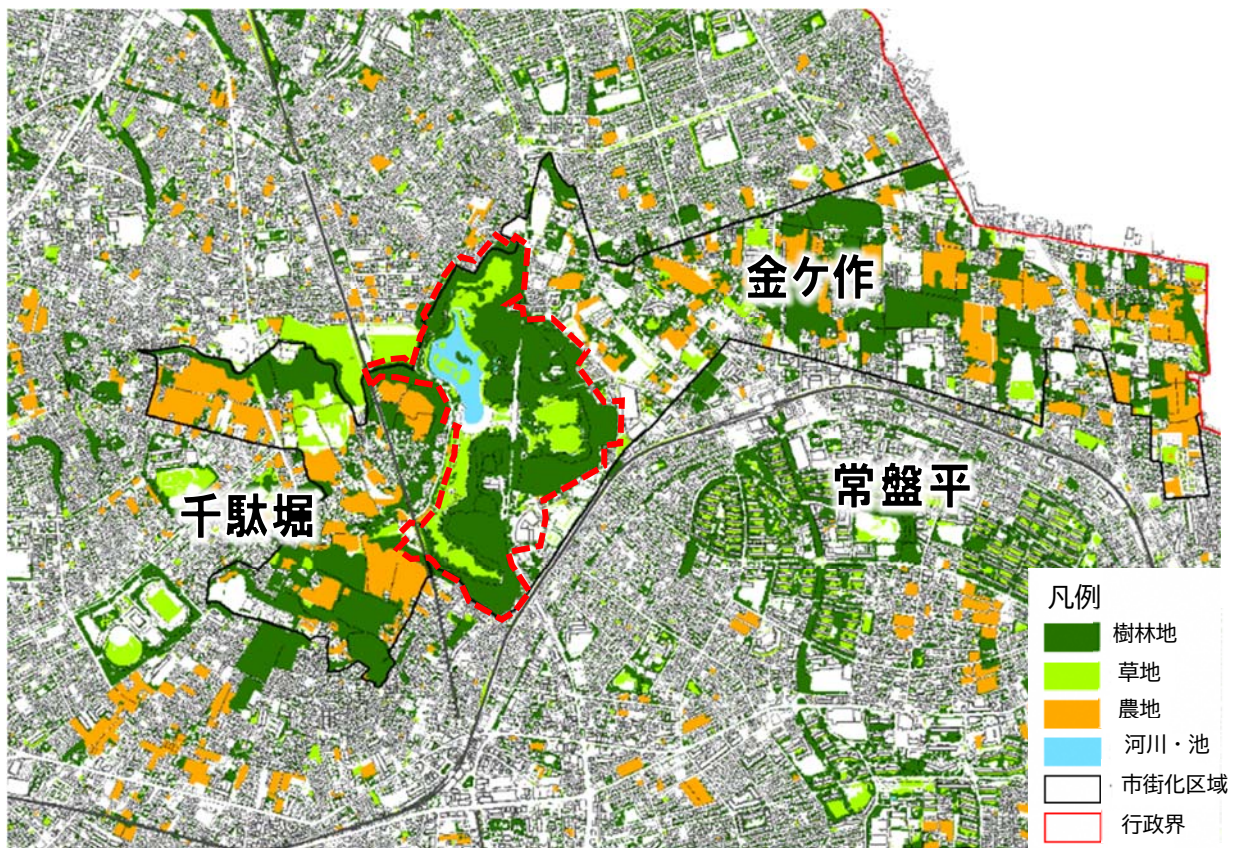


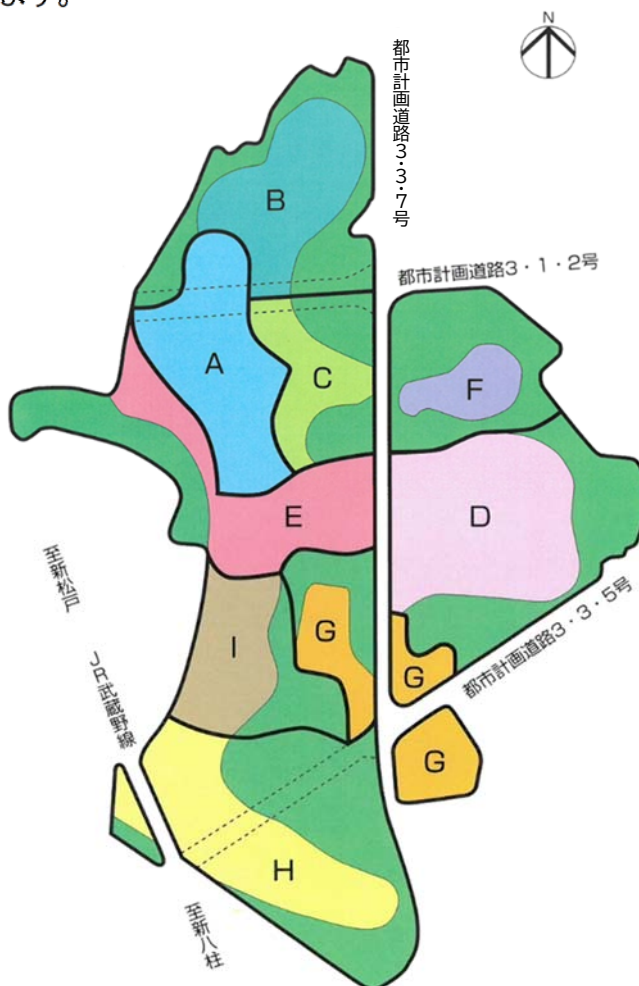
図 6 周辺の自然環境

3) ゾーニングの現況

21世紀の森と広場は、大きく自然・レクリエーション・文化に、ゾーニング大区分しています。さらに、各ゾーンを詳細にゾーニング小区分し、その特徴を生かした施設配置の原則と、配置される個別施設を明確にしています。

ゾーニング小区分は8つに細分化し、これを管理・運営区分として位置づけており、今後の利活用の実状に応じて見直します。

- ・自然ゾーン
 - A 水ゾーン
 - B 自然生態ゾーン
 - C 自然観察ゾーン
- ・レクリエーション
 - D 広場ゾーン
 - E 水辺ゾーン
 - F 野外活動ゾーン
- ・文化
 - G 文化施設ゾーン
 - H 催し物ゾーン
 - I 里のゾーン



テーマ(大ゾーン)	位置	小ゾーン(名称)	内 容	主 な 施 設
		自 然	A	水ゾーン (池)
B	自然生態ゾーン (いきものたちの谷津)		生きものたちの生息空間として、保全、保護する又、観察できる機能を付与しています	自然観察舎、湿地観察園
C	自然観察ゾーン (四季の山野辺)		自然観察のセルフガイドの場としての機能を付与しています	野草園、樹林散策路、ながれ
レ ク リ エ ー シ ョ ン	D	広場ゾーン (光と風の広場)	開放的な空間と避難広場としての機能を付与しています	芝生広場、湧水池、せせらぎ
	E	水辺ゾーン (水とこかげの広場)	市民のふれあいの場としての機能を付与しています	池の広場、河原、パークセンター、カフェテラス
	F	野外活動ゾーン (木もれ陽の森)	野外活動の場としての機能を付与しています	デイキャンプ場、研修センター等
文 化	G	文化施設ゾーン (縄文の森、中央口周辺)	屋内文化活動の場としての機能を付与しています	森の工芸館、博物館、森のホール21
	H	催し物ゾーン (つどいの広場)	野外文化活動の場としての機能を付与しています	芝生広場
	I	里のゾーン (みどりの里)	農村伝統文化、農村景観等、里のイメージを持たせています	水田、畑、せせらぎ、茶店
既存樹林		いのち(生命の森)	21世紀の森と広場の「命」である「みどり」を守り育てていきます	既存樹林、散策路

4) 公園施設の現況

21世紀の森と広場の主要な公園施設は、各所に位置し（図7 参照）それをつなぐ園路や駐車場により構成されています。

- ・ 中心となる広場（①水とこかげの広場、②光と風の広場、③つどいの広場）
- ・ 自然生態園（④自然観察舎、⑤自然生態園、⑥野草園）
- ・ 公園管理事務所（⑦パークセンター）
- ・ 各種便益施設（⑧カフェテラス、⑨里の茶屋、⑩アウトドアセンター、⑪木もれ陽の森 ⑫復元竪穴式住居、⑬森の工芸館）

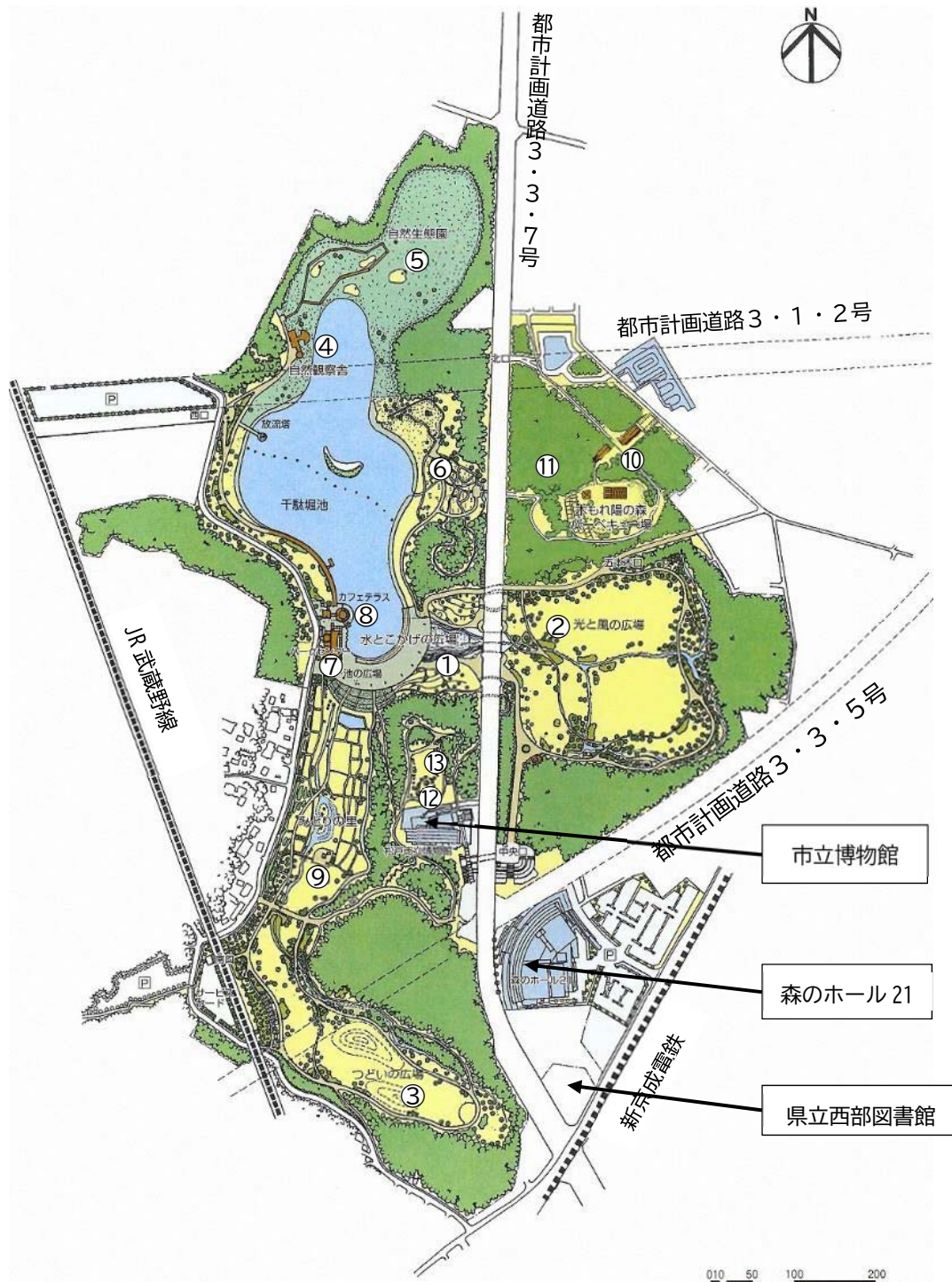


図7 21世紀の森と広場の公園施設位置

■公園内の広場



①水とこかげの広場



②光と風の広場



③つどいの広場

■自然生態園



④自然観察舎



⑤自然生態園



⑥野草園

■公園管理事務所



⑦パークセンター



パークセンター室内空間



パークセンター内みどりの相談カウンター

■各種施設



⑧カフェテラス



⑨里の茶屋



⑩アウトドアセンター



⑪木もれ陽の森



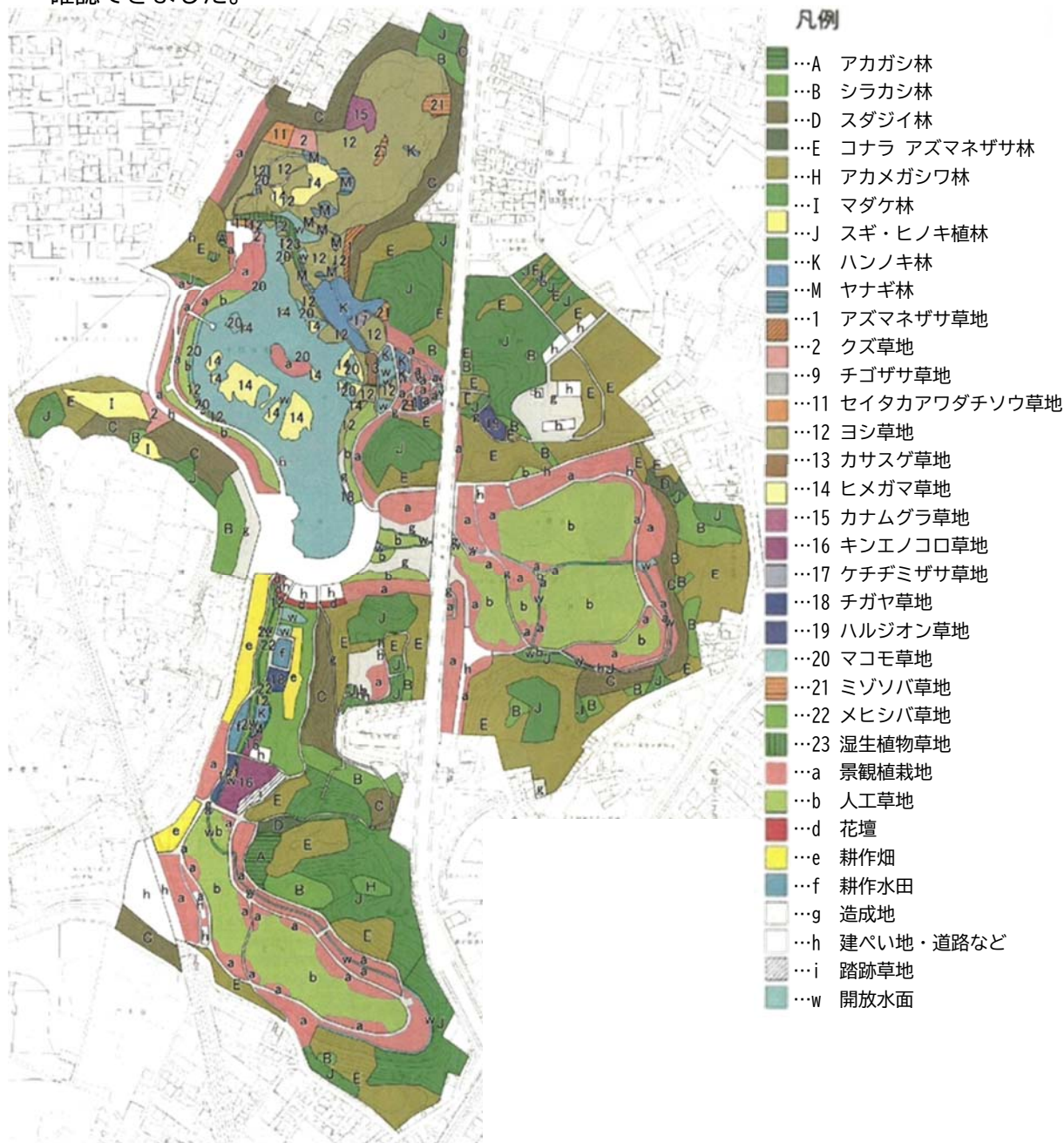
⑫復元竪穴式住居



⑬森の工芸館

5) 自然環境の現況

平成5年度開園当時の21世紀の森と広場は、整備に伴う人為的なかく乱の影響が多く見られ、生態的に若干不安定な状態でした。しかし、平成28年度調査では開園後20年以上が経過し、21世紀の森と広場において、安定した状態に変化したことを確認できました。



調査項目	平成28年度	平成5年度
・維管束植物（苔類や藻類を除いた植物）	552種	723種
・哺乳類（モグラ類、タヌキ 他）	7種	7種
・鳥類（サギ類、カモ類 他）	69種	60種
・両生類・爬虫類（ニホンアカガエル、カナヘビ 他）	13種	14種
・昆虫類（トンボ類、バッタ類 他）	723種	635種
・魚類（モツゴ、ドジョウ、カダヤシ 他）	11種	7種
・底生動物（カワニナ、サワガニ 他）	57種	49種

図8 平成28年度実施 自然環境モニタリング調査の結果

3-2 管理・運営に関する現状と課題

1) 全般的な管理・運営に関する現状と課題

21世紀の森と広場は、自然尊重を基本理念とする都市公園として、開園から25年以上にわたって本市が管理・運営しています。自然環境の保全を進めていることが高く評価されている他、各種イベントの実施により年間約60万人が来園しています。一方で、次のような課題も挙げられます。

- ・ゾーンごとにみどりに関する保全と活用の方針を設定しているが、管理・運営方針と連携していない
- ・年間約60万人が来園しているが広域からの来園が少ない
- ・イベントを多数実施しているがイベント以外での滞在時間が短い
- ・自然環境保全の観点から現在は禁止となっているペットの入園に関して、ペットも家族の一員として公園を利用したいという要望がある
- ・園内に市の施設である「森のホール21」「市立博物館」が立地しているが、これら施設と管理者が異なるため有機的な連携がなされていない



森のホール21



松戸市立博物館



博物館キャラクター

2) 個別施設の管理・運営に関する現状と課題

21世紀の森と広場内の公園施設が、老朽化及び機能低下が生じており、次のような早急な改良・改善を必要としています。

- ・カフェテラスや里の茶屋など飲食施設が稼働しているが、サービス施設としての魅力が不足している
- ・バーベキュー場の利用が多いが公園内の他のイベントとの連携がなされていない
- ・園路やトイレなどの老朽化が著しい
- ・トイレなどの便益施設を含めバリアフリーへの対応が不十分で、抜本的改善が必要である



バーベキューサイト



通路の老朽化状況



トイレの老朽化状況

3) 自然環境を尊重することに関する現状と課題

21世紀の森と広場の自然特性が把握されていることから、ハード・ソフト両面での対応の成果が出ているものの、より戦略的な保全計画の確立を必要としています。

- ・ 地域固有の里山の環境を維持・保全して来た経緯や、パークセンターでの自然資源の展示や、自然と親しむ観察会や講習会などがソフト面で成果をあげているが、更なる強化が求められる。
- ・ 池に多種の野鳥が飛来し、様々なトンボ類や水生昆虫など多くの種がみられ、湧水付近でホタルの生息が確認されるなど、生物多様性の保全に寄与しているが、長期的な生息空間保全の計画が確立されていない
- ・ 樹林地で林床性のラン科植物など、貴重な植物や在来種が確認されており、重要種・在来種も確認できているが、外来種が増加傾向にある。



キンラン



ニホンアカガエル



ヘイケボタル

4) 経営的視点で見た管理・運営の現状と課題

21世紀の森と広場の施設拡充・改善等のための投資的経費の投入や柔軟な対応を行政単独でおこなうことには限界があります。今後、必要な施設、サービスを充足するためには、民間事業者等との連携を図り新たなシステムを導入する必要があります。

- ・ 21世紀の森と広場を市が直接管理しているため、運営の柔軟性が低いといわれている
- ・ 21世紀の森と広場の情報発信は、市のホームページ・広報紙・SNSなどを活用しているが、いずれも既にフォローしている人にしか届かないため、新規の利用者を掘り起こす力が弱い
- ・ 隣接する公共施設との連携が十分ではなく、相乗効果を生むような取り組みが不足している



21世紀の森と広場のホームページ



21世紀の森と広場のガイドブック

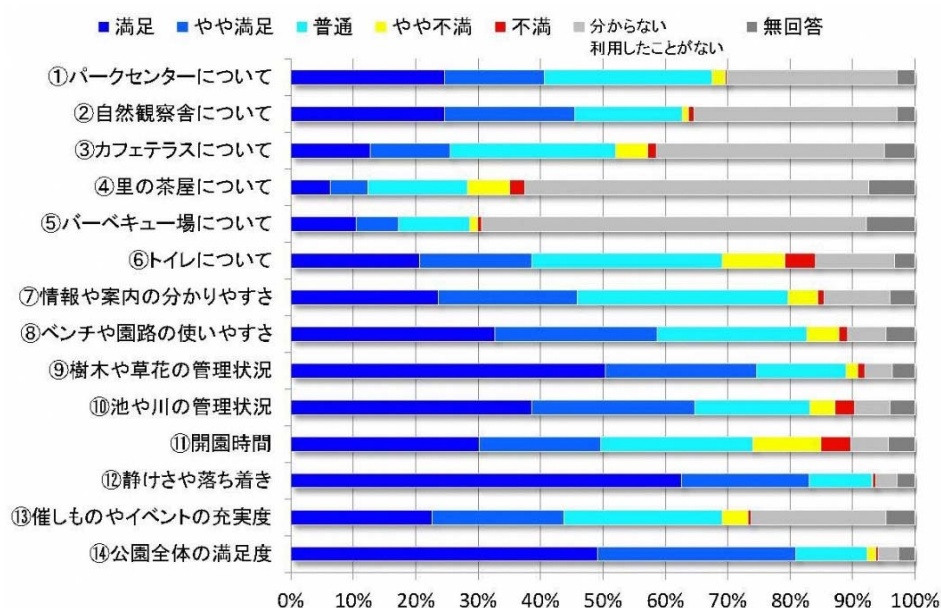
3-3 21世紀の森と広場の利用者評価と課題

1) 利用者アンケート調査の概要

- ・利用者アンケート調査は、令和元年（2019年）10月2日～3日、10月19日、11月9日に、21世紀の森と広場を来園した方を対象に、出口調査と園内巡回調査を実施しました。
- ・来園者の延べ1,299人に調査を依頼し、回答が得られたのは576件（回答率44.3%）でした。

2) 調査の結果からみる評価

21世紀の森と広場の全体満足度は、満足・やや満足が8割以上を占めるなど、満足度は高い調査結果となりました。



- ・自然を楽しむ目的で、来園される方が多くを占めました。
- ・徒歩での来園される方（公園周辺地域からの来園）が、多くを占めました。
- ・平日の来園者は、散歩や自然を楽しむ目的の60歳以上の方が多くを占めました。
- ・休日は30～40歳代の方の来園が増加し、子どもを遊ばせる方が増加しています。

3) 調査の結果からみる課題

- ・カフェテラス、里の茶屋、バーベキュー場などの収益施設の認知度が低く、行政による広報だけでは不十分です。
- ・不満が多い項目（トイレについて、池や川の管理状況、開園時間）は、改善に向けて取り組む必要があります。
- ・飲食施設としておしゃれなカフェやコンビニが求められています。
- ・パークセンターや自然観察舎では、公園の自然の特性を生かした運営が求められています。
- ・イベント等の情報を、わかりやすく発信する必要があります。
- ・ペットの入園について、前向きな意見と慎重な意見がありました。

第4章 21世紀の森と広場の将来像を示す4つの柱

4-1 21世紀の森と広場の将来像を示す4つの柱

21世紀の森と広場の現状等を踏まえて、パークマネジメントプランの実行により目指す新たな21世紀の森と広場の将来像を4つの柱で整理しました。

○豊かなみどりを次世代につなぐ

21世紀の森と広場をつくる目的でもあった豊かなみどりは、構想が始まった頃から数えて40年以上を経て、公園そのものが巨大なグリーンインフラと言えるまでに大きく成長しています。この豊かなみどりを、市民が誇るみんなの財産として、次の世代につないでいきます。

○21世紀の森と広場を進化させる

働き方や暮らし方、価値観の多様化が進み、ニューノーマルという考え方が広がるなど、社会や公園を取り巻く環境が大きく変化しています。ライフスタイルの変化とともに21世紀の森と広場も進化し、松戸のみどりの中心として、みどりと暮らす豊かさを生み出していきます。

また、この場所のこれまでの歴史や文化を継承し、これからも続いていく新たな歴史や文化を創っていきます。

○地域とともに地域の課題を解決する

21世紀の森と広場は、環境問題が深刻化する昭和50年代(1975年～)において、自然環境が市民生活を豊かにするものととらえ、次代に継承することを目指して計画されました。これはSDGsの理念とも合致するもので、21世紀の森と広場の進化に合わせて地域が持つ機能と連携することで、社会課題や地域課題の解決(地域のSDGs)達成を目指します。

○みんながゆるやかにマネジメントに関わる

21世紀の森と広場に関わる多様な主体が互いの立場を尊重してゆるやかに結びつき、それぞれの得意分野で活躍できるような、実効性、持続性の高い新たなマネジメントシステムを構築します。パークマネジメントプランに基づき、多様な主体のみんながゆるやかにマネジメントに関わることで、21世紀の森と広場と地域とがそれぞれの価値と魅力を高めあう相乗効果を生みだします。この効果を市域全体に波及させ、市民がみどりと暮らす豊かさを実感できるまちにします。

4-2 パークマネジメントプランと21世紀の森と広場の将来像の4つの柱の関係

パークマネジメントプランに基づき、21世紀の森と広場に関わる多様な主体が積極的に参画し、巨大なグリーンインフラ^{※1}とも言える豊かなみどりが有する多様な機能を活用することで、21世紀の森と広場を進化させ、地域の課題を解決していきます。

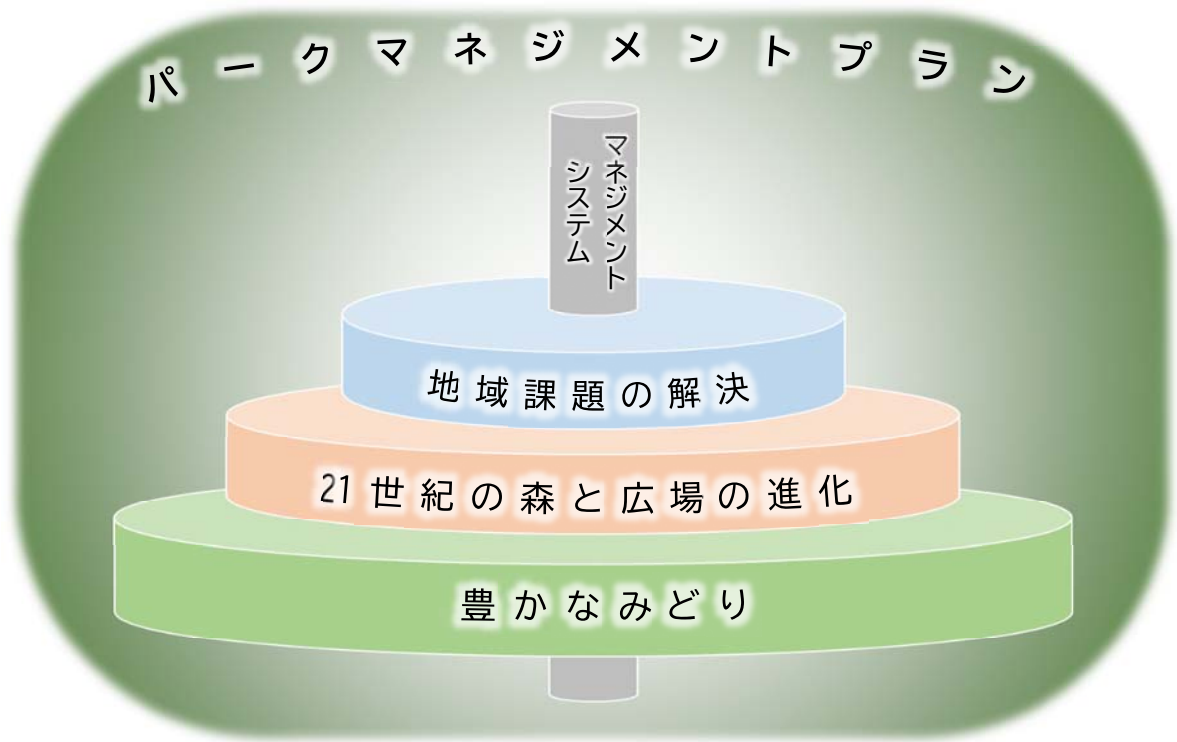


図9 パークマネジメントプランと21世紀の森と広場の将来像の4つの柱の関係性

※1グリーンインフラとは

グリーンインフラとは、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組です。

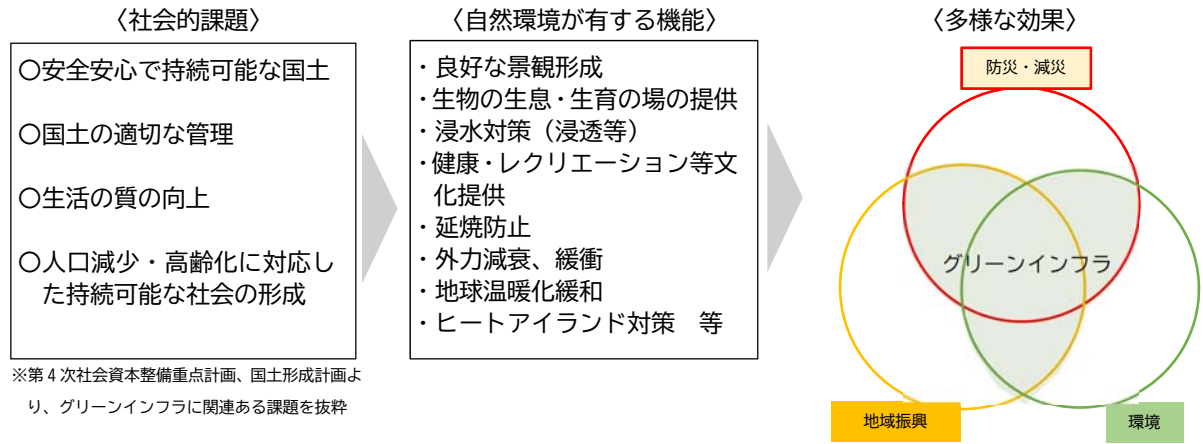


図10 グリーンインフラとは（イメージ） 出典：令和元年 国土交通省資料

第5章 取り組みの方向性

5-1 取り組みの方向性

豊かなみどりを次世代につなぐために、以下の3つの方針を設定し、取り組みます。
豊かなみどりが保全・活用されることで、公園の魅力、地域の魅力が高まり、新たな21世紀の森と広場の実現につながることを期待します。

将来像

豊かなみどりを次世代につなぐ

豊かなみどりを次世代につなぎます

21世紀の森と広場に関わる多様な主体が連携し、この公園の基盤である豊かなみどりを保全・活用することで、市民が誇る財産として次の世代につないでいきます。

取り組みの方向性

将来像

21世紀の緑と広場を進化させる

方針① 21世紀の森と広場の魅力を高めます

- 1) みどりを活かし、みどりに親しむ場を創出します
- 2) 一日過ごしたくなる魅力的な空間と快適な施設を創出します
- 3) 歴史を感じる学びの場から新たな文化を発信します
- 4) 魅力を伝える情報を充実し効率的に発信します

将来像

地域とともに地域の課題を解決する

方針② 公園の多様な機能で地域の魅力を高めます

- 1) 豊かで健全な地域の生態系を育みます
- 2) 健康づくりの拠点(ヘルシーパーク)を構築します
- 3) コミュニティづくり活動の拠点を形成します
- 4) 地域の農的資源を利活用します
- 5) 生涯学習の活動の場を創出します
- 6) 生命と財産を保全するレジリエント^{※1}な機能を構築します

将来像

みんながゆるやかにマネジメントに関わる

方針③ マネジメントシステムを構築し実践します

- 1) 従来の管理運営システムを見直します
- 2) 多様な主体が協働できる組織や体制を構築し、実践します

※1 レジリエント：弾力性のあること。災害や不景気といった経済的なダウントレンドを柔軟に受け止めて、それを反発力に変え、以前より大きく成長することを意味します。

5-2 パークマネジメントプランの推進により SDGs に貢献します

このパークマネジメントプランの推進により、豊かなみどりを保全・活用し、次世代につないでいくことで、SDGs（25頁参考資料 参照）に貢献します。

当プランの方針とSDGsとの関連を以下のように分類整理しました。

	取り組み内容	具体的方策	関連する目標
豊かなみどりを次世代につなぎます	21世紀の森と広場の魅力を高めます	1) みどりを活かし、みどりに親しむ場を創出します	教育、育成、普及啓発により豊かなみどりを次世代につなぎます。 
		2) 一日過ごしたくなる魅力的な空間と快適な施設を創出します	どんな人でも何の不安を抱えることなく、いつでも楽しく快適に過ごせる場所にします。 
		3) 歴史を感じる学びの場から新たな文化を発信します	歴史を学び、新たな文化を創造する拠点とします 
		4) 魅力を伝える情報を充実し効率的に発信します	必要な情報が必要な人に伝わるように、情報格差をなくします。 
	公園の多様な機能で地域の魅力を高めます	1) 豊かで健全な地域の生態系を育みます	貴重な動植物の保全と育成により、豊かなみどりを守ります。 
		2) 健康づくりの拠点（ヘルシーパーク）を構築します	みどりに囲まれて活動することだけでなく、公園に来ること自体が健康につながります。 
		3) コミュニティづくり活動の拠点を形成します	様々なコミュニティの人が集まる場とし、コミュニティの輪を広げるほか、地域経済の活性化に寄与します。 
		4) 地域の農的資源を利活用します	暮らしと農の関わりを増やし、農業を身近なものにします。 
		5) 生涯学習の活動の場を創出します	みどりの中での活動により、みどりの多様な機能や活用し方を学びます。 
		6) 生命と財産を保全するレジリエントな機能を構築します	公園を地域の防災活動拠点とし、安全・安心に暮らせるようにします。 
	マネジメントシステムを構築し実践します	1) 従来の管理運営システムを見直します	市の財源だけに頼らない仕組みにより、持続可能なマネジメントに取り組みます。 
		2) 多様な主体が協働できる組織や体制を構築し、実践します	新たな仕組みによるマネジメントを推進し、松戸市のパークマネジメントのモデルとして発展させます 

方針①

21世紀の森と広場の魅力を高めます

1) みどりを活かし、みどりに親しむ場を創出します

21世紀の森と広場でこれまで守り育ててきた豊かなみどりの保全・活用によりみどりを身近に感じ、親しむ場とします。

- ・ 貴重な動植物や生態系の保全と生物多様性の向上に向けた「(仮称)みどり保全ガイドライン」の策定
- ・ 自然教育や生物多様性の向上に向けた取り組みの拠点となる自然観察舎の活用
- ・ 樹林地の活用などみどりを身近に感じてもらうためのアクティビティやワークショップの実施
- ・ 保全と活用の取り組みに合わせたゾーニングの見直し



21世紀の森と広場の豊かなみどり



自然観察舎での野鳥観察



自然観察員と行っている湿地の観察会

2) 一日過ごしたくなる魅力的な空間と快適な施設を創出します

21世紀の森と広場に、誰もがワクワクする魅力的な空間を創出します。また、老朽化した施設の改修により誰もが安全・快適に利用できる設備を導入するなど、施設のサービス水準を向上させます。

- ・ 「あそびのすみか」をきっかけとした[森あそび][野良あそび][水あそび][広場あそび]の促進による、「まだ帰りたくない、また来たい」と思わせる空間の創出
- ・ 一年を通して楽しんでもらえるようなシーズンブルな企画の運営
- ・ 様々な利用者ニーズに対応し、多様性にも配慮したバリアフリー・ユニバーサルデザインの導入
- ・ 老朽化した施設の改築、更新、メンテナンスによる安全・快適に利用できる公園への改善



新たな遊び空間「あそびのすみか」



どこでもシアター



(イメージ写真)ユニバーサルデザインに配慮した「みんなのトイレ」

3) 歴史を感じる学びの場とともに文化を発信します

21世紀の森と広場内の歴史資源を活かし、地域の歴史に触れられる場、学びの場を創出します。また、文化・芸術活動の場としての活用を図り、これからも続いていく歴史、文化を公園から発信します。

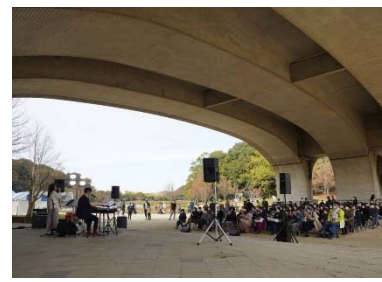
- ・ 市立博物館との連携による公園内での展示やワークショップの実施
- ・ 大学との連携による松戸アートピクニックなどの芸術活動の推進
- ・ 松戸フォレストコンサートやドコでもシアターなどの音楽会による文化活動の推進



公園内の歴史資源(竪穴式住居(復元))



松戸アートピクニック



松戸フォレストコンサート

4) 魅力を伝える情報を充実し効果的に発信します

誰にでも分かりやすく効果的に、21世紀の森と広場の情報を提供します。

- ・ 誰にでも分かりやすい情報発信 (ユニバーサルデザイン)
- ・ 利用者層(ターゲット)に合わせた多様な手段の活用
- ・ 利用者や公園に関わる多様な主体による情報発信を促す仕組みの創出



パークマネジメント特設サイト (柏市・あけぼの山農業公園の例)

方針②

多様な機能で地域の魅力を高めます

1) 豊かで健全な地域の生態系を育みます

21世紀の森と広場と地域のみどりを連坦させ、健全な生態系を育てていきます。

- ・次世代のみどりの担い手となる人材の育成、環境教育、普及啓発活動
- ・環境保全活動団体や大学の研究との連携による、貴重な動植物や生態系の保全と生物多様性の向上



みどり資源の利活用



里山保全活動団体との連携



2) 健康づくりの拠点(ヘルシーパーク)を構築します

地域の健康づくりの拠点として、21世紀の森と広場における健康増進の取り組みを推進します。

- ・交通アクセスの不自由さを活かし徒歩で来園したくなる健康増進プログラムの導入
- ・大学や医療施設等と連携したみどりによる健康づくりの実証実験の実施
- ・医療施設との連携による乳幼児健康診査や高齢者健康診査等の公園内での実施



医療施設や福祉施設と連携した取り組みのイメージ



体を動かすプログラムのイメージ

3) コミュニティづくり活動の拠点を形成します

多世代・多文化共創によるコミュニティづくりと、多様な市民が相互に柔軟に連携する機能を十分に発揮できる市民交流拠点を、21世紀の森と広場に形成します。

- ・コミュニティ活動活性化や子育て世帯の交流の場の形成支援
- ・農協や商店会との連携による地域経済を盛り上げるための企画運営
- ・市民のアイデアを取り込んだ企画の実現



地域と連携したイベント



地元の店舗との連携



4) 地域の農的資源を利活用します

21世紀の森と広場の農的空間や飲食施設と連携し、地域の農的資源を活用します。

- ・地域の農業に携わる人たちと連携した農体験の実施
- ・地産農産物を活用した飲食メニューの展開



農体験（左から 餅つき・田植え・農作業）

5) 生涯学習の活動の場を創出します

21世紀の森と広場に生涯学習の場や教育活動の場を創出します。

- ・教育委員会やスカウト活動団体※1との連携 ※1いわゆるボーイスカウトやガールスカウト
- ・小中学校、博物館、森のホール 21 等の教育文化施設との連携
- ・関係するアクティビティの人材の育成



生涯学習の場や教育活動の場の状況

6) 生命と財産を保全するレジリエントな機能を構築します

防災機能を中心とし、様々な社会機能の持続性を実現するレジリエントな機能を、21世紀の森と広場に確立します。

- ・地域の防災拠点となる公園の機能強化
- ・防災力を高めるための地域との一体的な連携
- ・業務継続計画の策定



21世紀の森と広場を用いた防災訓練のイメージ

方針③ マネジメントシステムを構築し実践します

1) 従来の管理運営システムを見直します

従来の行政主導管理から、多様な主体のみんながパートナーシップで連携する新しい方式へ転換します。

- ・行政だけでなく多様な財源(クラウドファンディングや基金の活用など)による仕組みの構築
- ・事業者とのタイアップなど、多様な主体が相互にプラスになる関係の構築
- ・公園と地域と利用者の中で消費と還元が循環する仕組みの構築
- ・行政と民間の適切な役割分担(老朽化対策、防災対策等行政が担うべきものと、サービスを提供するような民間事業者が得意とする分野の整理)

2) 多様な主体が協働できる場をつくり、パークマネジメントプランを推進します

多様な主体が協働できる場を設け、マネジメントシステムを構築し、それぞれの得意分野を活かして実践します。

パークマネジメントプランを推進する新しい協働の場づくりのイメージ

21世紀の森と広場のパークマネジメントを推進するための協働の場は、ここまで述べてきた将来像や方針に沿った事業を進めていくための実行の場です。公園管理者、関係行政機関、関係地方公共団体、学識経験者、観光関係団体、商工関係団体、自治会のほか、公園を利用している住民団体、公園施設の設置運営者など、公園利用者の利便性の向上を担う者により構成されます。中間支援機能を発揮するために、コーディネーターを配置することも必要です。

この場は、意見や要望を表明する場ではなく、相互に協議した結果に基づき、各構成員が有機的に連携し、関係者が実行しやすい環境をつくることで、継続的に都市公園の質を向上させ、公園利用者の利便性の向上を目指します。

協働の場を構成する各主体は、互いに連携し、各主体が持つネットワークを活かしてパークマネジメントプランを推進します。また、将来的にはネットワークでつながる多様な組織が構成主体として参画し、組織が発展的に拡大していくことも考えられます。

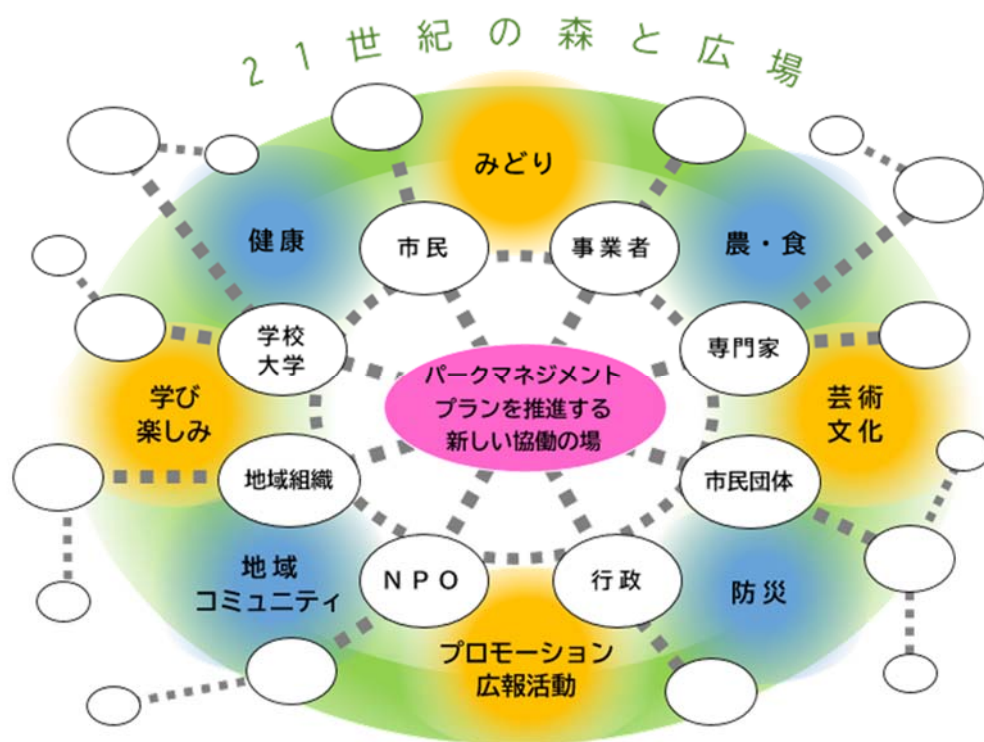


図11 新しいパークマネジメントシステムのイメージ

5-3 パークマネジメントプラン実現のための施策の進め方

21世紀の森と広場が目指す将来像の実現に向けて、期間をおおむね10年（2022～2032）とし、定期的に見直します。パークマネジメントプランに基づき実施する具体的な内容は、パークマネジメントに関わる多様な主体が協働し、目指す将来像の実現に向けて常に進化させていきます。

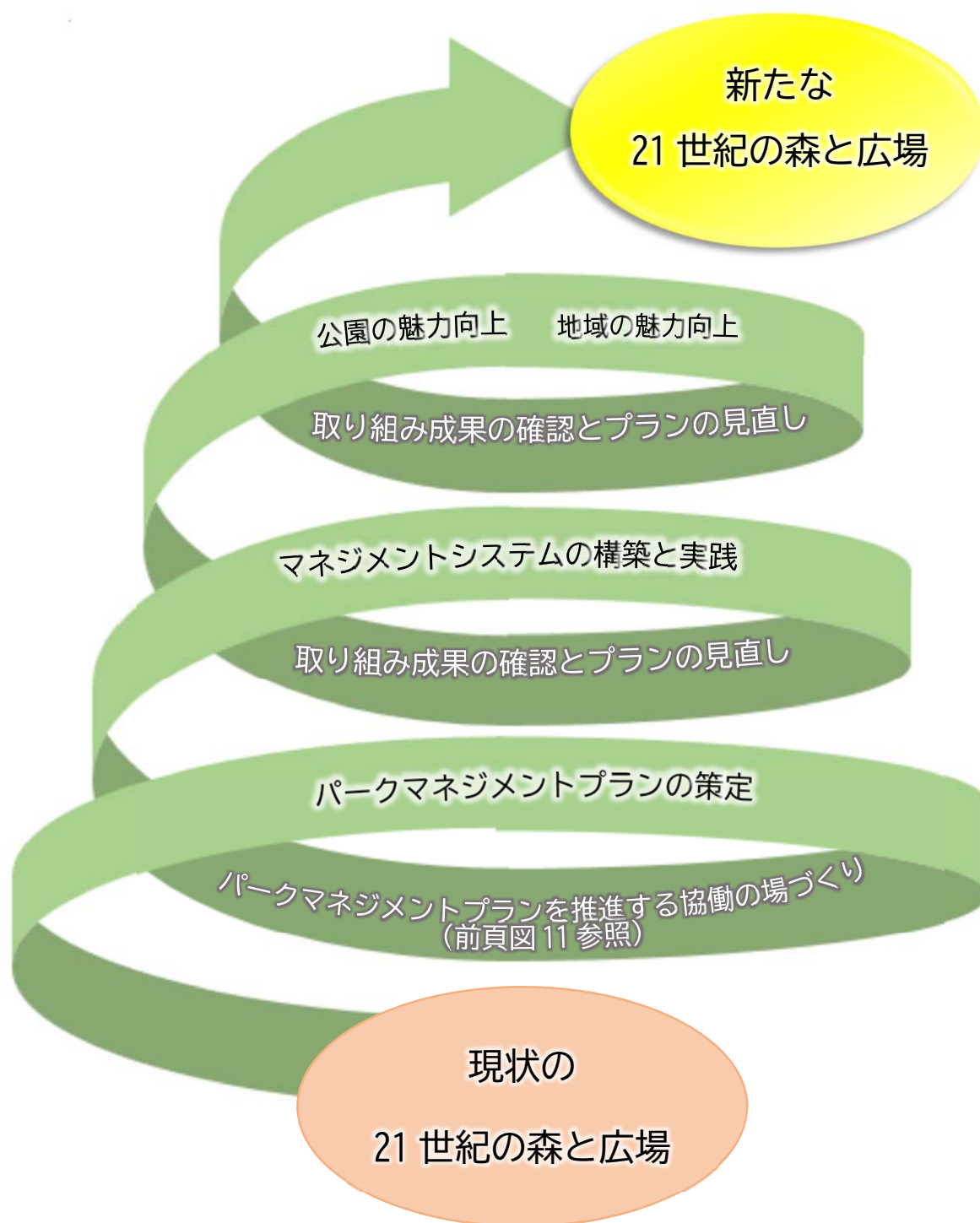


図12 パークマネジメントプランの展開

参考資料

■SDGsとは

SDGs（持続可能な開発目標）とは、2015年9月の国連サミットで採択され「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。下記の17のゴール（169のターゲット）から構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。



図13 SDGsの17のゴール 出典：JAPAN SDGs Action Platform

■SDGsのウェディングケーキモデル

SDGsの17の目標をウェディングケーキの形に模して説明したモデルで、環境という土台があってこそ、持続可能な社会、経済があることを表しており、自然環境の重要性が再評価されています。21世紀の森と広場は、グリーンインフラとして地域の自然環境の拠点となる場所であり、SDGsの達成に貢献することが期待されます。（18頁参照）



図14 SDGsのウェディングケーキモデル 出典：内閣府 地方創生SDGs